

## 平成30年度学校運営協議会 委員からの意見

### <第1回> 7月11日(水)

- ・高校時代の学習が大学の勉強に影響を与えている。キャリア教育、タイムマネジメント、自分のコントロールをどう指示していくかがキーとなる。
- ・新しい学力観に繋げるためには、高校の学習が何に繋がっていくかを示す必要がある。
- ・全国水準と比べてアクティブ・ラーニングの実施率が低い。
- ・進路指導について教員が本当に理解して指導しているのか。3年間を見越しての位置づけを考えて次に繋がる線になっているのかを考えるべき。

### <第2回> 11月14日(水)

- ・(働き方改革に関して) 分掌の仕事や成績処理はシートなので、資料を共有することにより先生の仕事が軽減できる。データを残しておく共有ホルダーなどをつくっておくと良い。生徒指導の影響と負担感が低いのは評価できる。ネット教材の利用や系統的に教材を共有すると負担が減る。
- ・(働き方改革に関して) 学ぶ機会を支える組織が必要。異動してきたとき、授業計画をたてる際、去年のテストを参考にして考えた方が、授業デザインがしやすい。他府県ではそうしている。
- ・(大学入学共通テストに関して) センター試験の新テストへの移行が見られる。新テスト方式の質問にどれくらい対応できるかも考えておくこと。センター試験だよりのみにならないように。生徒を問題に柔軟に取り組めるよう十分指導しておくこと。特に、上位者。今年も新テストに依っていく可能性がある。プレテストを受けて、面白かったという生徒と難しかったという生徒に分かれる。大学側は面白かったという生徒を求めている。

### <第3回> 2月15日(金)

第3回目は、校長より平成30年度の学校経営計画についての評価と、12月に実施した学校教育自己診断結果を中心に報告を行い、その結果を踏まえ、平成31年度の学校経営計画の提起があった。今回は、今までと違い、新旧運営委員会の委員の出席により、協議を行った。議題は、模試結果の分析・部活動・キャリア教育など多岐に亘り、運営委員と協議員の意見交換を行った。ただ、このような形での協議は、初めてであったので、議題は多岐に亘ったが、互いの意見表明という傾向が強く、議論の深まりを欠いた傾向があったのは、認めざるを得ない。平成31年度学校経営計画の承認を得て終了した。